



## 軍艦島

長崎市端島。江戸時代に鍋島藩が石炭を掘っていた島。大正時代からは軍艦島という通称で有名です。三菱重工長崎造船所の設備などとともに、明治期日本の近代化遺産として世界文化遺産への登録をめざしている島。小学校の教科書に、石炭の島として掲載されていた記憶があります。

もともと軍艦島は南北約320m、東西約120mの小さな島です。明治30年代からボタを使って6回の埋め立てを繰り返し、現在では南北に約480m、東西に約160mに広がっています。その島を、高さ10mほどの護岸で囲い、7階建て以上の鉄筋コンクリートの建物が建てられています。南西方向から見ると軍艦にそっくりです。



中嶋哲夫の

「人事も歩けば」



最盛期の昭和35年には5,200人ほどの家族が暮らし、人口密度は8万人を超えたそうです（当時の東京都の9倍の密度）。高層社宅上には畑や神社がありました。学校も高層建築のなかであれば、地下には商店。また、病院、映画館、パチンコホール、ダンスホールなども高層建築のなかに設けられていました。仕事をするために狭い空間を最大限に使い、生活空間も確保した究極の職住近接の島です。

しかし、最盛期にはテレビの普及率が100%になるほど栄えた軍艦島も、エネル



▲軍艦島の全景

ギー政策の転換によって昭和40年代には事業を縮小。人口も減少していきました。1974年に閉山し、全員離島の後は立ち入り禁止の島となっていました。ほぼ30年の後、2005年に報道陣への公開がありました。その後、遊歩道なども整備され、現在ではツアー船が通っています。

この冬、ツアー船で初めて軍艦島を訪れました。遊歩道のある島の東南部だけしか立ち入ることはできませんが、そこから坑道の入り口や日本最古の鉄筋コンクリート住宅、山のうえにある職員社宅などを眺めることができます。生活の場となっていた坑夫の高層住宅群はコンクリートが崩壊し、危険なため立ち入りが禁止されています。それでも巨大な建築物であることは十二分に感じ取ることができます。文化遺産という美しい言葉にふさわしいと思えない、廃墟の怖ろしさを感じます。耕作放棄された中山間地の農地は雑木林へと戻りますが、巨大な構築物は自然には戻りません。

「後片付けしなさい」と子供の頃に叱られた記憶がよみがえりました。

(MBO実践支援センター代表)